

連鶴の折り方

1、はじめに

連鶴とは、1 枚の紙から作る繋がった折鶴のことである。折り紙にあまりなじみのない方も繋がった鶴を見たことはあるのではないだろうか。

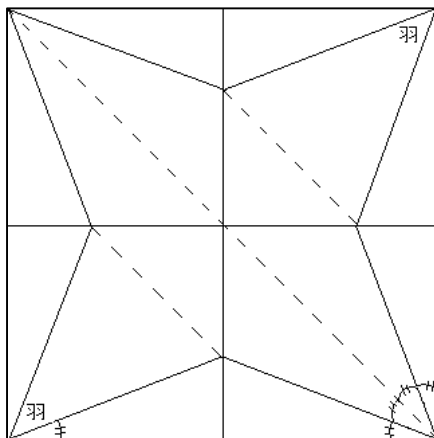
連鶴を折るときは普通の折り紙であまり使わない切り込みを多用する。また、紙を 2、3 重に重ねて折ったりもするので、折鶴を折るときとはまた違った技術が必要になる。

世界最古の折り紙の本と言われる「秘伝千羽鶴折形」には、49 の連鶴の折り方と銘（作品名）、そしてその銘にちなんだ恋に関する狂歌が書かれている。狂歌については参考文献を参照していただきたい。ここでは秘伝千羽鶴折形にあるうち比較的折り易いものの折り方を紹介する。

2、連鶴を折る前に

連鶴を折るには何匹もの鶴を繋げて折らなければならないこともあり、その場合は普通に鶴を折る手順でいちいち折るのは難しい。そこで普通は鶴の展開図折りを利用する。

右図のように折り目をつけ（色が出る面を向けているとして実線が山折り、点線が谷折り）、折り目に沿ってたたむと、羽になる部分を持ち上げる工程（花卉折り）まで終わった状態にすることができる。（右図から一部山谷が逆転する部分もある）



連鶴を折るときは、この折り目を鶴になる部分にすべて入れてから、切込みを入れ、それぞれの鶴を組み立てていく。作品によっては、羽になる部分を持ち上げない状態で他の鶴を組み立てたほうがいいものもある。

3、 下準備

作品によって数ミリ程度で紙が繋がるものもあるので、使用する紙は丈夫な和紙を使うのがよい。

切込みを入れるのはカッターナイフを使うときれいな切り込みを入れられる。

また、慣れないうちは紙が繋がる部分をセロテープで固定しておくとう安心して作業できる。

4、 連鶴を折る

それでは連鶴の切り方図を紹介していく。

それぞれの切り方図と完成品の写真に加え

●銘(作品名)

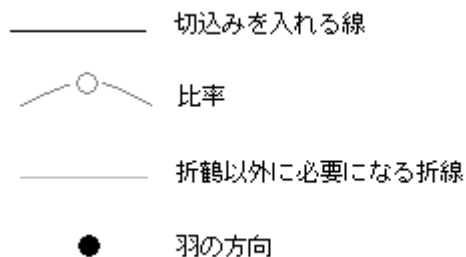
●低中高の3段階で示した難易度

●見た目の形

●折り方のコツなど

を作品別に載せていく。

切り方図中の記号の意味は右の通り。

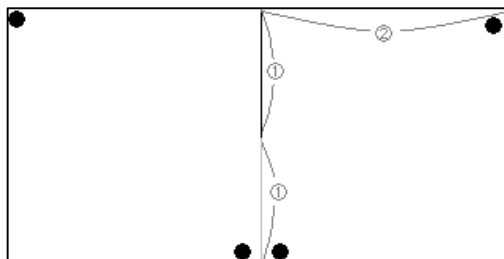


妹背山ーいもせやまー

- 低難易度
- 翼で繋がった 2 羽の鶴
- おそらく連鶴の中で最も折りやすい作品の 1 つ。紙の表と裏の



色を使って 2 羽の鶴の色が異なる色になるように折るので、一度長方形の紙を半分に折りたたみ正方形になるようにし、鶴の展開図の折り目をつけると作業を簡略化



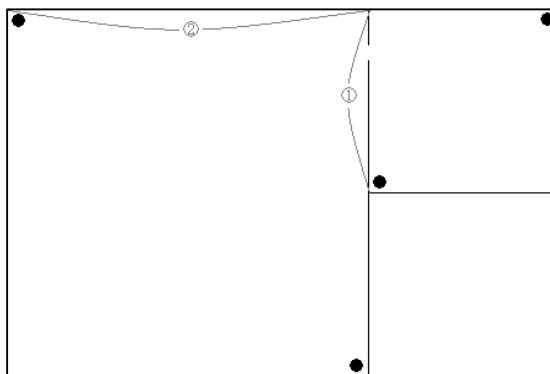
できる（紙のずれには注意）。ちなみに、頭の向きを左右逆になるようにすると野干平（やかんぺい）という別の作品になる。

妙妙ーみょうみょうー

- 低難易度
- 大鶴の尾に繋がる小鶴
- 切込みを全て入れて組み立てを始めるとちぎれやすい。大鶴と小鶴を分ける切込みの



うち長い方（画像の下側の切り込み）だけ先につけて大鶴と小鶴の頭を折る前の状態まで折り、それから切り込みのうち短い方（画像の上側の切り込み）を入れ、小鶴の頭を折るとよい。秘伝千羽鶴折形では小鶴が大鶴の 3 分の 1 程度の大きさになっている。



九万里ーくまんりー

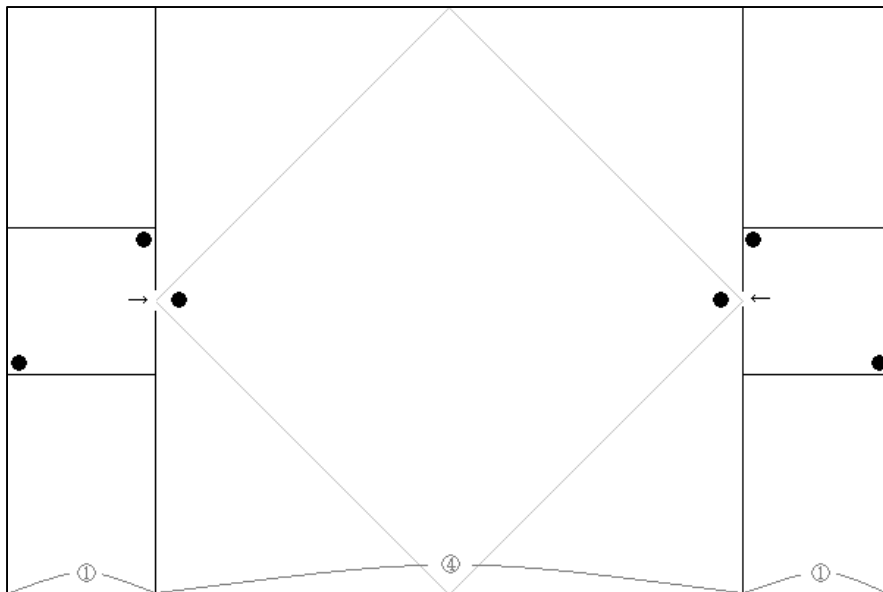
●中難易度

●大鶴の羽の上に乗る2羽の小鶴

●2:3の長方形を切り出したら一度2:1.5になるよう



半分に折り、(これが大鶴の頭・尾のラインになる) それに沿うよう座布団折りの折り目をつける。この座布団折りの交点(図中の丸印)を小鶴との境目の目安にする。後は折り目を全てつけ、大鶴、小鶴の順に組み立てればよい。大鶴の翼の先端を少し潰すようにすると小鶴を安定させることができる。花見車、熊谷、春の曙という3つの作品も似た形をしているが、それぞれ別の方法で繋がられている。

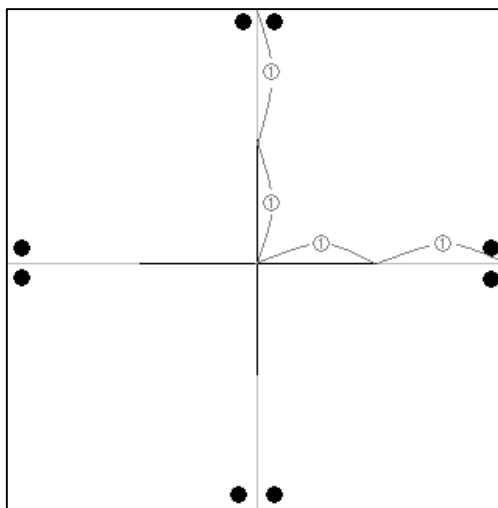


龍籠車ーりんどう

ぐるまー

- 中難易度
- 羽で一周するように繋がった4羽の鶴
- 妹背山の発展系とも

いえる作品。羽が広い範囲で繋がっているの、見た目ほど難しくない。折り目を全てつけてから切り込みを入れ、組み立てる。4羽の鶴を同じくらいの進度で作っていくのがコツである。慣れないうちは切り込みを深く入れると簡単に折れる。また、正方形に4羽の鶴を作る作品ではどれもそうだが、折り目をつける段階で座布団折りを活用すると作業を簡略化できる（これも紙のずれには注意）。

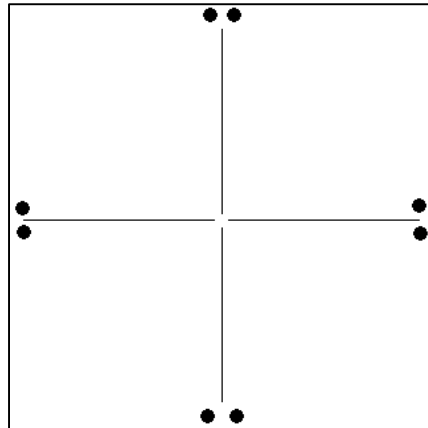


風車ーかざぐるまー

- 中難易度
- 羽、くちばしが繋がった4羽の鶴
- 龍籠車と同様にすべて折り目をつけてから切り込みを入れ、組み立てる。頭を持ち上げる工程を同時に行なうのがコツである。

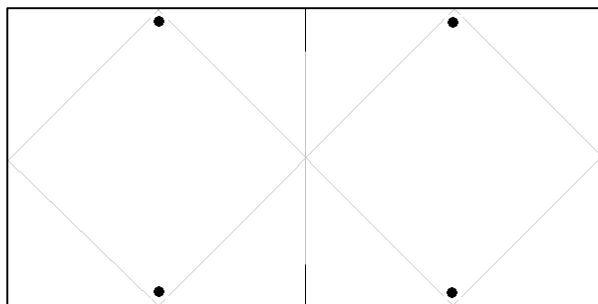


ちなみに、風車を元として羽がすべて繋がってないものが楽々波（さざなみ）、中央の頭が2つしか繋がっていないものが四ッの袖（よつのそで）という別の作品になる。これらの方がもちろん簡単なので、まずはこの2作品を折ってみてから風車に挑戦するとよいかもしれない。



花橘一はなたちばな一

- 中難易度
- 尾で繋がる2羽の鶴
- 両方の鶴ともに座布団折りをしてできる正方形を1羽の鶴にするよう折り目をつけ、中央に切り込みを入れる。この切り込みは尾のラインで折れるようになる所まで入れる。
（切る部分・切らない部分の比率は上から $1:\sqrt{2}:\sqrt{2}:1$ ）羽で繋げ



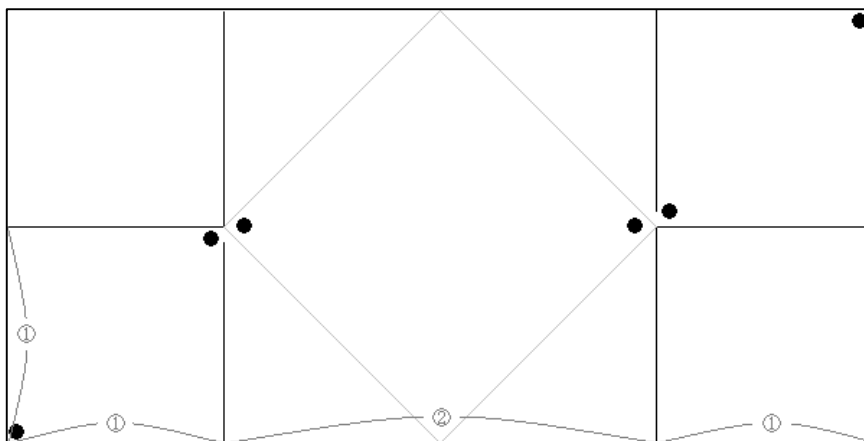
るのは簡単だが尾でつなげようとするとき難しい。頭・尾と羽の方向をきちんと区別するよう折り目をつけておくと組み立てるときに混乱せずに行える。

早乙女ーそうとめー

- 高難易度
- 大鶴の上に2枚の羽で繋がる小鶴
- まず端の不要部分をそれぞれ切り捨て、大鶴と小鶴



の間の切込みも半分まで入れる。それから中央で座布団折りをして大鶴の折り目をつけ、小鶴は別々に頭・尾と羽方向が区別できるよう折り目をつける。折り目を全てつけたら切込みを最後までいれ、大鶴の頭・尾を細くする工程まで折り、小鶴にする2枚の紙を大鶴の上で合わせ1枚の紙と見て最後まで折る。小鶴が完成したら大鶴の頭・尾を上げる。

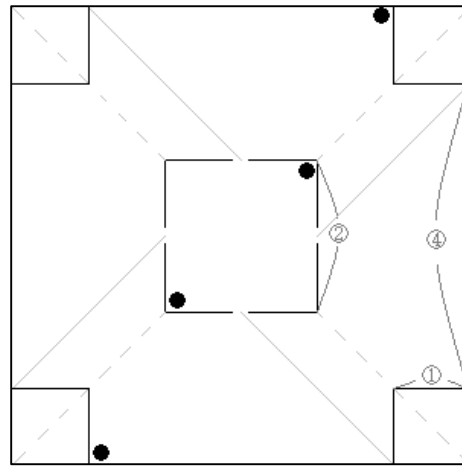


巣籠ーすごもりー

- 高難易度
- 大鶴の上に乗る小鶴
- 見た目に反し難易度の高い作品。切り方図中の折鶴以外に必要な折線のうち実線は山折り、点線は谷折りを表している。折鶴以外に必要な折線に従って折ると、大鶴にな



る部分が捻る様になって小鶴になる部分が浮き上がる。小鶴を先に完成させ、続いて大鶴を折っていく。切り方図のままに切り込みを入れ、折り目をつけていくだけでは難しいため、参考文献の本に紹介してある折図も参照していただきたい。また、巣籠を応用したさらに難しい蓬莱、迦陵頻、つく羽根などの作品もある。



5、最後に

ここでは数作品しか紹介できていないが、秘伝千羽鶴折形には 49 もの作品が収録されている。これを解説している本は数多くあり、折りやすい手順や原本とは違った切り方図などが紹介されている。この項で興味をもって頂けたのならそちらを読まれることをお勧めする。また、連鶴を使った創作活動をされている方もいらっしゃり、そちらの方々が書かれた本も非常に面白い。

6、参考文献

●つなぎ折鶴の世界―連鶴の古典『秘伝千羽鶴折形』 岡村昌夫著

折りやすい手順はもちろんのこと、それぞれにつけられている狂歌の解説が充実しており面白い。独自の解釈で作られた原本と違う切り方図も載っており、そちらではより一層綺麗に折ることができるよう作られている。

●連鶴 http://homepage3.nifty.com/k_iky/turu_body.htm

(2014 年 9 月 22 日回覧)

これは本ではなくウェブページだが、それぞれの作品の画像がついているので便利である。記憶を頼りに作られたそうなので、一部の切り方図が誤っていたりもする。